

外務省 密

1253  
1254

佛印交渉

電信寫

昭和17 二九九六一 暗 河内 十一月十六日午後  
本省 十六日夜着 政  
谷外務大臣 芳澤大使

第一四一六號ノ一(極密)

(横山公使外交部長會談ニ關スル件)

十四日副外交部長横山ヲ來訪會談一時間ニ及ビタルカ其ノ除同部  
長ハ佛本國自由地帯ニ樞軸軍進駐ノ結果「ヴィンシー」政府ハ獨逸  
ノ意圖次第ニテ重要ト新交スルヤモ知レス又重要關モ中野部諸國  
同機英米ノ御氣味取りノ爲進シテ「ベタン」政權トノ新交ヲ央ス  
ルヤモ測ラレス右何レノ場合ニモ佛印重要ノ關係ハ當然新編ノ外  
ナキ筋合ナルヘク其ノ結果ヲ考フルニ(1)重要關ハ積極的ニ攻撃眼

外務省

1254

勢ヲ軟ラサル迄モ用心ノ爲國境防備ヲ強化スルコトアルヘク(2)我  
方モ之ニ應ジ現在以上ニ兵力ヲ用意スルノ要アルヘク(一八九五  
年國境條約ニ基ク國境事件現地處理不可能トナル(3)日本側モ北部  
佛印防衛軍ノ増強ヲ要スルニ至ルヘント思ハルル處日本側ノ本件  
ニ關スル御意圖ハ如何ナルヘキヤ(續ク)

外務省

電信寫

昭和17 二九九六〇 暗 河内 十一月十六日午後  
本省 十六日夜着 政  
谷外務大臣 芳澤大使  
第一四一六號ノ二

自分ハ佛印トシテハ飽迄モ日本側ノ御希望ニ副フ豫慮スヘキモ  
ノト信シ居ル故不取敢自分個人ノ参考迄ニ貴意ヲ伺ヒタシト述ヘ  
タルニ依リ横山ハ本件ハ極メテ重要問題ナル故起ニ意見ヲ述ヘ  
ク帝國政府ニ於テ政治上尊重上等ノ全般的見地ヨリ何等決定指示  
アルヲ待ツノ外無シト可然ク應請ノ上最後ニ「尤モ斯ル場合ニハ  
日佛印關係ハ愈々本格的ニ友好的トナリ佛印現政體ノ立場ハ益々  
鞏固トナリ國內不服分子掃拭モ容易トナリ好都合ナラスヤ」ト述

外務省

ヘ兎モ角御話ノ次第大使ニモ御傳ヘスヘシト申シタル處同部長ハ  
之ヲ諒承セル趣ナリ  
右ノ次第ニテ重慶トノ斷交ハ何時實現スルヤモ知レサルニ付テハ  
我方トシテモ之ニ對處スルニ遠算無キ様致度シ  
河内、西貢ニ轉電セリ  
大東亞大臣ニ轉報アリタシ

外務省

1254

電 信 案	獨 伊 ニ 轉 電 ア リ タ シ	二、佛本國ニ關シテハ獨伊ノ意向ヲ尊重シ之ニ協力ス	(2) 支那ニ於ケル佛租界ニ關シテハ既定方針ニ依ル	カ ラ 一 層 積 極 的 ナ ラ シ ム	ツ 敵 側 策 謀 ヲ 封 殺 ス ル ヲ 主 眼 ト シ 更 ニ 帝 國 ニ 對 ス ル 各 般 ノ 協	(1) 佛印ニ對シテハ既定方針ニ依ルモ特ニ佛印ノ靜謐ヲ保持シ且	シ 差 當 リ 左 ノ 通 リ 措 置 シ 爾 後 ノ 情 勢 ノ 變 化 ニ 具 フ ル モ ノ ト ス	外 務 省
-------------	---	--------------------------	---------------------------	---	---	---------------------------------	---	-------------

(日本標準規格 B5)

0 7

國家機密

123354

電  
信  
課  
長

發  
電  
係

昭  
和  
十  
七  
年  
十  
一  
月  
二  
十  
一  
日  
起  
草

電 信 案	現 下 ノ 情 勢 ニ 鑑 ミ 帝 國 ハ 大 東 亞 ニ 於 ケ ル 佛 國 領 土 並 ニ 權 益 ニ 對 シ テ 決 定 セ リ	現 下 ノ 情 勢 ニ 伴 フ 當 面 ノ 對 佛 施 策 ト シ テ 二 十 一 日 左 ノ 通 大 本 營 政	府 連 絡 會 議 ニ 於 テ 決 定 セ リ	(暗) 件 名 宛 三 谷 公 使 發 件 名 發 件 名 三 谷 外 務 大 臣	電 送 第 39989 號 昭和十七年十一月二十一日午後九時0分發	主 管 政 務 局 長 主 任 第 四 課 長	第 三 七 五 號 (館長符號)	外 務 省
-------------	--	---	--	--	--	--	---------------------------------	-------------

(日本標準規格 B5)

0 6

REEL No. A-1216

1254

現下ノ情勢ニ伴フ當面ノ對佛施策 昭一七一、二一

一、現下ノ情勢ニ鑑ミ帝國ハ大東亞ニ於ケル佛國領土竝ニ權益ニ對シ  
差當リ左ノ通り措置シ爾後ノ情勢ノ變化ニ具フルモノトス

(一)佛印ニ對シテハ既定方針ニ依ルモ特ニ佛印ノ靜謐ヲ保持シ且ツ  
敵側策謀ヲ封殺スルヲ主眼トシ更ニ帝國ニ對スル各般ノ協力ヲ  
一層積極的ナラシム

(二)支那ニ於ケル佛租界ニ關シテハ既定方針ニ依ル

ニ佛本國ニ關シテハ獨伊ノ意向ヲ尊重シ之ニ協力ス

外務省

0 8

1254

極秘

昭和17 三三三九三 (晴) ヴイシト 十二月十九日前着  
本省 二十一日前着

谷外務大臣 三谷大使

第五三九號ノ一(館長符號扱)

佛印ノ事態改善ニ關スル件)

河内發大東亞大臣宛電報第一二三號及一二四號ニ關シ

一、芳澤大使ノ御意見ニハ同感ナル處米英ノ北阿作戰後印支カ唯一  
ノ植民地タルニ至リタル爲植民省方面ニ於テ印支ヲ自己ノ仕事  
ノ擴張リトシテ其ノ權限確保ニ懸命ナル傾向顯著ナルニ鑑ミ我  
方カ印支總督權限擴張方ヲ抽象的一般的ニ申出ル時ハ此ノ方面  
ヨリスル抵抗大ナルモノアルヘク他方「ラバル」首相ニ於テハ

外務省

0 9

REEL No. A-1216

1254

現下ノ情勢ニ伴フ當面ノ對佛施策 昭一七一、二一

一、現下ノ情勢ニ鑑ミ帝國ハ大東亞ニ於ケル佛國領土竝ニ權益ニ對シ  
差當リ左ノ通り措置シ爾後ノ情勢ノ變化ニ具フルモノトス

(一)佛印ニ對シテハ既定方針ニ依ルモ特ニ佛印ノ靜謐ヲ保持シ且ツ  
敵側策謀ヲ封殺スルヲ主眼トシ更ニ帝國ニ對スル各般ノ協力ヲ  
一層積極的ナラシム

(二)支那ニ於ケル佛租界ニ關シテハ既定方針ニ依ル

三、佛本國ニ關シテハ獨伊ノ意向ヲ尊重シ之ニ協カス

外務省

0 8

1254  
1293

極秘

電信寫

昭和17 三二五九三 (暗) ヴイシー 十二月十九日前着  
本省 二十一日前着

谷外務大臣

三谷大使

第五三九號ノ一(館長符號扱)

(佛印ノ事態改善ニ關スル件)

河内發大東亞大臣宛電報第一二三號及一二四號ニ關シ

一、芳澤大使ノ御意見ニハ同感ナル處米英ノ北阿作戰後印支カ唯一  
ノ植民地タルニ至リタル爲植民省方面ニ於テ印支ヲ自己ノ仕事  
ノ繩張りトシテ其ノ權限確保ニ懸命ナル傾向顯著ナルニ鑑ミ我  
方カ印支總督權限擴張方ヲ抽象的一般的ニ申出ル時ハ此ノ方面  
ヨリスル抵抗大ナルモノアルヘク他方「ラバル」首相ニ於テハ

0 9

外務省

極秘

電信寫

1254

昭和 三二二九〇 (暗) ヴイシー 十二月十九日後發  
本 省 二十一日前着

谷外務大臣

三谷大使

第五三九號ノ二(重長符號級)

又彼自身カ我方要求ヲ容レタル上ニテ殖民省方面ヲ説得スル材  
料トシテモ何等カ現實ノ事實ヲ欲求スヘシ例ヘハ今回ノ交渉進  
行中經濟財政問題文武官肅清問題等ニ關聯シ總督ノ權限小ナル  
爲不都合ノ生シタル機會ヲ捉ヘ之ヲ種ニシテ「ラパール」ニ總  
督ノ權限ノ擴張ノ必要性ヲ説キ以テ錦印政廳ノ權限擴大ト其本  
國ニ對スル獨立性等ヲ確保スル様措置スルコト得策ナルヘシト  
思考セラル

0 11

外務省

極秘

電信寫

1254

大局上總督ノ權限擴張ノ必要ナル所以ハ之ヲ了解スルトスルモ  
彼ノ氣質ヨリ推シ我方申出ヲ裏附クル具體的問題ヲ提起スル方  
其ノ理解切實ナルヘク(續ク)

0 10

外務省

1333  
-1254

極  
秘

電信寫

ニ他面我方トシテハ此ノ際先ツ佛印當局ヲシテ我ト協力スル以外  
 ニ生クル途ナキコトヲ徹底的ニ感得セシムルコトヲ必要トスル  
 次第ニテ其ノ爲ニハ何處迄モ佛印相手ニ話合ヲ進メラルルヲ可  
 トスヘク佛印側ヲシテ成ルヘク佛國ノ法制ニ拘泥セシメス彼ト  
 ノ交渉ニハ専ラ「現實ノ必要」ヲ以テ迫ラルル方此ノ際得策カ  
 ト存セラレテ斯クシテ總督自身自己ノ權限擴張ノ必要ヲ痛感セシ  
 ムルコトヲ得ハ好都合ナルヘシ不取敢申見申進ス（了）

外務省

0 12

REEL No. A-1216

極秘

1254

電信寫

1254

昭和18

五三二  
五三四  
五三六  
五三三  
五四五  
五四四  
五三八  
五二七  
五二九

暗

西貢  
本省

一月十三日後發  
十三日夜發

主管 南政(總務)

大東亞省

青木大東亞大臣

鈴木支部長代理

第三三號

(對佛印政使ニ關スル鈴木「ドク」會談)

栗山事務局長ヨリ  
本官ヨリ芳澤大使ハ十二月十四日及二十四日二回ニ亘リ

充分日本政府ノ意圖ヲ説明セラレタル次第ナルカ同大使ト自體

管トノ間ニ始メラレタル會談ヲ繼續スルニ當リ本官カ日本政府  
ト聯絡ヲ執リ歸任シタル次第ニモアリ芳澤大使ニ右ノ如キ訓令  
ヲ發スルニ至リタル日本政府ノ見解ヲ説明スルハ有益ナリト思考  
スル旨ヲ前置シタル上北阿及「ソウロン」ノ事件並ニ其ノ影響  
ハ日本政府ノ深甚ナル注意ヲ喚起セリ殊ニ昨年十月佛印ヨリ重  
慶ニ逃避セル佛國將校カ在佛印佛人ノ七割ハ同盟國派員ナリト  
新聞ニ聲明セル経緯モアリ再ヒ同様ナル出來事カ佛印ニモ起ラ  
スト云フコトハ何人モ保障ヲ得サルハタ他方昭和十五年及十六  
年ノ日佛間諸協定カ締結セラレタル條件ハ其後ノ豫見セサル事件  
ニ依リテ完全ニ覆ヘサレタル處之モ諸協定カ法律的ニ無効トナ  
リタルヤ否ヤノ問題ヲ惹起セストモ尠クトモ或ル程度迄適用シ

規格-B4(東京 8.185)

0 14

0 13

REEL No. A-1216



大東亞省

得サル状態ニ陥リタルコトハ確ナリ是等ノ理由ニ依リ日本隊ハ  
 ハ大東亞ノ現状ニ副フヘク日佛印關係ヲ積極的ニ檢討スル必  
 ラ認メ芳澤大使ニ意見交換ノ訓令ヲ發シタル次第ナルカ現在ノ  
 佛國ハ少クトモ國際政治的ニハ其ノ自由ヲ失ヒ（「バモリゼ」）  
 居ルコトニモアリ條約改訂ハ差當リ適當ナラサルヘク此ノ際寧  
 ロ事實上ノ解決方法ヲ採用スルコト然ルヘント思料ス夫レニ付  
 テハ貴總督ニ於テ「ヴィンシー」政府ノ訓令ヲ仰ク必要アリト爲  
 スカ如キコトナク全責任ヲ執ラレンコトヲ要望スル次第ナリト  
 述フ右ニ對シ「ドクロー」ハ逃避將校ニ付テハ何レノ國ノ軍隊  
 モアルコトニテ斯ノ如キ者ノ言ヲ其ノ靈信用セラレザランコト  
 ラ望ム又北阿ノ事件ノ如キハ佛印ニテハ起リ得サルコトハ後ニ

申上クル通りナリ佛國ノ國際政治止ニ於ケル地位ニ付テハ貴總  
 ハ尤モナルカ一九四一年ノ諸協定カ其ノ後ノ事態ニ副ハサルコ  
 トモ認ムルモ芳澤大使トモ意見交換ヲ爲セル結果條約ノ有效性  
 フ此ノ際問題トスルコトナク友好的解決ヲ見出シ必要ナラハ暫  
 定的取極ヲ爲スコトニモ異存ナシ「ヴィンシー」政府ノ訓令  
 ノ陰ニ隱ルルカ如キコトヲ爲ササルヘン尤モ佛國ノ主權ノ維持  
 （總督ハ松岡「アンリー」協定ノ趣旨ヲ述フ）ト日佛印共同防  
 衛ノ建前ヲ尊重スル基礎ノ下ニ意見ノ交換ヲ爲スコトト致度シ  
 ト附加シタルカ本官ハ主權尊重ノ件ニハ觸レズ夫レヲ聞流シテ  
 條約問題ニ言及セルハ大東亞戰爭及佛國ノ現状ヨリシテ戰爭前  
 ニ締結セラレタル協定ノ條項ヲ指スモノニシテ一昨年十二月九

極秘

1254

電信寫

1254

大、東、亞、省

日、軍事協定其ノモ、ハ、茲ニ問題トナラス  
而シテ暫定収極ト言フコトモ必スシモ必要ナラス要ハ事實上ノ  
解決方法ヲ見出タスモアリト述ヘタルニ總督ハ右ノ趣旨ニ同感  
ナリト答ヘタリ

(二)次ニ本官ヨリ調整スルニ當リ先ツ政治關係ノ問題ヲ吟味スヘシ  
トテ芳澤大使カ十二月十四日ノ會談ニモ述ヘラレタル如ク過去  
ノ經驗ニ徴スルニ貴總督ノ協力政策ハ日本政府トシテハ消極的  
シテ東亞ニ於ケル戰爭ノ必要ヲ満足セシムル性質ノモノニア  
ラズト認メ居シリ又言フ迄モナク大東亞共榮圈ニハ佛印モ入り  
居リ其ノ共榮圈ノ全部ハ日本カ米英及其ノ同盟國ニ對シ遂行シ  
ツアンル戰爭ニ或ル程度推キ込マシ居ルモノナリ大東亞共榮圈

ニ屬スル一員ノ安危ハ即チ他ノ構成員ノ安危ニシテ佛印ハ日本  
ノ陣營ニ然ラスハ相手ノ陣營ヲ撰ハサルヘカラス此ノ際中間ノ  
陣營ナルモノハアリ得スト思考ス佛印ノ福祉ノ爲ニハ唯一ツノ  
途即チ貴總督ノ採ラシタル日本トノ協力ノ途ヨリナカルヘシ前  
シテ其ノ協力ヲ効果的ナラシムル爲ニハ日本トシテハ佛印ノ靜  
謐カ確保セラルルコトニ關心ヲ持タサルヲ得ス然ルニ昨年ノ種  
々ノ不幸ナル事件ハ憲兵事件等ヲ指ス旨ヲ述フ一及北阿弗利加  
ノ事件ニ鑑ミ日本トシテハ右靜謐カ佛印外部ノ敵ニ對シテノミ  
ナラス内部ノ敵ニ對シテモ確保セラルル爲積極的ナル措置ヲ採  
ラルル機貴總督ニ要求スル充分ナル理由アリ而シテ之カ爲ニハ  
對日協力政策ニ反對ナル分子ハ素ヨリ如何カハシキ分子ヲモ總

電報-B4(東京 3196)

0 18

0 17

REEL No. A-1216

アジア歴史資料センター

大東亞省

テ排除シ且斯カル分子カ日本ノ利益ヲ害スル爲佛印ヲ其ノ陰謀ノ基地ト爲スコト能ハサル様積極的保障ヲ要求スルモノナリ客月二十四日芳澤大使ハ是等ノ措置ノ例トシテ肅清ノ問題ト佛印ニ於ケル敵人竝ニ中立人取扱ノ二問題ヲ提出セラレタルカ結局日本政府カ貴總督ニ求ムル所ハ此ノ際一層態度ヲ明確ニシ從來ノ中立的態度ヲ捨テ對日協力ヲ効果的ナラシムル爲積極的措置ヲ採ランコトヲ要望スルモノナル旨ヲ述ヘタリ

右ニ對シ總督ハ貴官カ二陣營ノ中一ヲ撰ヘト述ヘラレシ處自分ハ二ツノ馬ニ賭ツナスカ如キ意圖ハ有セス自分ノ態度カ明カニナラスト言ハルルモ日本ノ敵例例ヘシ「ニユイテリ」等ヨリノ放送ヲ聞カルレハ自分カ彼等ヨリ如何ニ取扱ハレ居ルコトニ

依リテモ充分知ラレ得ヘシ佛印カ大東亞戰爭當初以來日本爲ニ盡シタルコト且之ニ對シ「サボタービニ」ノ行爲一ツタニナキヲ以テモ自分ノ態度ハ了解セラレ得ヘシト述ヘ又自分モ佛印内ノ秩序及靜謐ノ確保セラルルコトニ付テハ日本側モテ佛印政府ノ對土民問題（獨立運動問題）指スニ付障害ヲ加ヘラレサル限り凡有ル保障ヲナシ得ヘシト答ヘタルニ付本官ハ言葉ノ上ノ保障ヲ求ムルモノニアラスンテ肅清ヲ徹底セシメ又通敵行爲ノ禁壓等積極的ナル措置ヲ採ラレシコトヲ要求スルモノナリ又協力ノ問題ハ結局人ノ問題ニモ歸シ本官カ貴總督ニ信頼シ得ルトシテモ果シテ貴總督ノ同僚（部下）ニ信頼ヲ置キ得ルヤモ問題ナルヘシト述フ

編者一〇四（東京 8165）

極秘

1254

電信

1254

大東亞省

右ニ對シ總督ハ獨佛關係ト日佛關係ノ現状ハ異ナリ獨佛ハ僅ニ  
 休戰關係ニアリテ比較ニナラス特ニ自分ハ北阿事件發生直後「  
 ベタン」元帥ニ忠誠ノ發電ヲ爲シ佛印ノ進ムヘキ途ヲ明カニシ  
 タル等ヨリスルモ阿弗利加事件ノ如キ當地ニテ起リ得サルモノ  
 ナリ又自分ノ同僚部下モ總務長官ハ自分ト同體トモ謂ヒ得ヘク  
 「モルダン」將軍又「ベタン」ニ忠實ニシテ何レモ信賴シ得ヘ  
 キ人物ナリ而シテ自分カ二年半前着任セル以來財務長官（英總  
 領事ト陰謀ヲ計ラントセル形跡アリシト述フ）土木局長等「ド  
 ゴーリスト」派ト目セララルル官吏二百人以上ヲ罷免シ肅正ニ盡  
 シ居レリト答フ

右ニ對シ本官ハ過去ノ行爲ニ對スル制裁ヨリモ將來ニ對スル豫  
 防的措置ヲ要望スル點ヲ指摘シタル處總督ハ嫌疑者モ南佛洋口  
 シングスエン」ニ收容セルモノ十名又現ニ去ル十二月八日ニハ三  
 名ニ對シ行政的抑留ヲ行ヒ又西貢「シヨロン」地方ノ在住ヲ禁  
 止サレタルモノ二十名ヲ算シ御希望ナラハ「リスト」ヲ送り差  
 支ナシ

「デベツシユ」紙ノ持主ノ如キ右ノ中ニ含まレ目下嚴重ニ監視  
 セラレ居ル状態ナリ  
 尙極秘事項ナルモ「シヤム」灣ニ於テ亞米利加潜水艦カ海岸ト  
 通信セントセル形跡アリタルニ依リ「ベランジエ」少將ヨリ直  
 ニ日本海軍ニ通報シタル如キ又協力シテ掃海ヲ爲シ居ルカ如キ  
 尙北部佛印ノ防衛ノ協力方ニ付テモ日本陸軍ニ申出タル等佛印

高橋一B4(東京 3196)

0 22

0 21

極秘

1254

電信寫

大東亞省

御ノ態度モ御了解ヲ得度ク又肅清ニ付テハ芳澤大使ニモ御話置  
 キタル通り日本御ニ通報スヘク又日本御ヨリモ必要ニ際シ通報  
 ヲ得度ク今後トモ御印警保局長ト大使府及該憲兵隊トノ間ニ於  
 テモ密接ナル聯絡ヲ採ニシムヘント述ヘタリ敵人取締問題ニ付  
 テハ既ニ我方方針ヲ容レ且具體的ニ話合進ミ居ルニ付本官ニ之  
 ニ言及スルヲ避ケ政治關係ニ付テハ先ツ話ヲ打切り次回ハ政治  
 以外ノ問題ヲ吟味スルコトトセリ  
 外務大臣へ轉報アリタシ  
 「ヴィンシー」へ轉電セリ

編一五五(東京・8.106)

0 23

REEL No. A-1216

秘

1254

1254

昭和18

五〇四一六  
五〇四一七

暗

北京  
本省

一月十四日後發  
十四日夜着

青木大東亞大臣

鹽澤公使

K 第二號

(租界問題ニ關スル對佛交渉ニ關スル件)

本官發南大宛電報

第二六號

閣下ノ御意嚮ヲ含ミ十三日土田ヲ派シ「コスム」大使ニ對シ租界返還問題一般特ニ北支トシテ(一)公使館區域及(二)天津佛租界ニ關スル佛國側協力ヲ要請セシメタル處同大使トシテハ根本ノ方針トシ

テ現下日佛關係ノ大局ニ鑑ミ友人ノ間柄ヲ以テ出來得ル限りノ協力ヲ盡スヘキ決心ナル旨閣下ニ傳達方ヲ依頼スルト共ニ(一)ニ付テハ日支間ノ話合付ク場合東京ニ於テ佛大使ニ接觸セラハルコトトナルヘキカ自分ノ思付キトシテハ私人ノ既得權益ノ擁護及護衛隊ノ存否ノ問題ヲ決定シ得レハ佛國政府トシテ問題無カルベク又(二)ニ付テハ自分カ南京ニ赴キテ話合ヘレバ最モ簡單ナルモ現在ノ立場ニテハ之モ出來ス結局ハ東京ニ於ケル兩國當局ノ接觸ニ依リ兩政府ニ於テ何等ノ妥結ヲ考案シ得ヘント考フ支那各地何レノ問題ニ關シテモ自分ニテ御役ニ立ツコトアラハ重光大ヨリ何ナリト御注文ヲ受ケタル上意見打診等モ致スヘント述ヘタル趣ナリ尙士田ヨリ南京ノ交渉ノ進捗狀況ニ付テハ差支無キ限り内報シ佛側ノ

大東亞省



大臣  
次官  
政務局  
第四課長  
第二課長

(分類)

電 信 案	依り海峽知ノ南シリタル外佛國ノ在文	帝國ノ對佛印方針ハ往來第卅四号ニ	往來第卅七号ニ關シ	電送第 785 號	主管 政務局長
				昭和十八年一月二四日起草	主任 第一課長
外 務 省			録件名	宛 在 大島大使	發 出 大文
				件名 在 支租界及還内	發 出 大文
			第四三號	昭十七符号扱	

電信課長  
發電係

全五  
半二

押 田 金 5 05

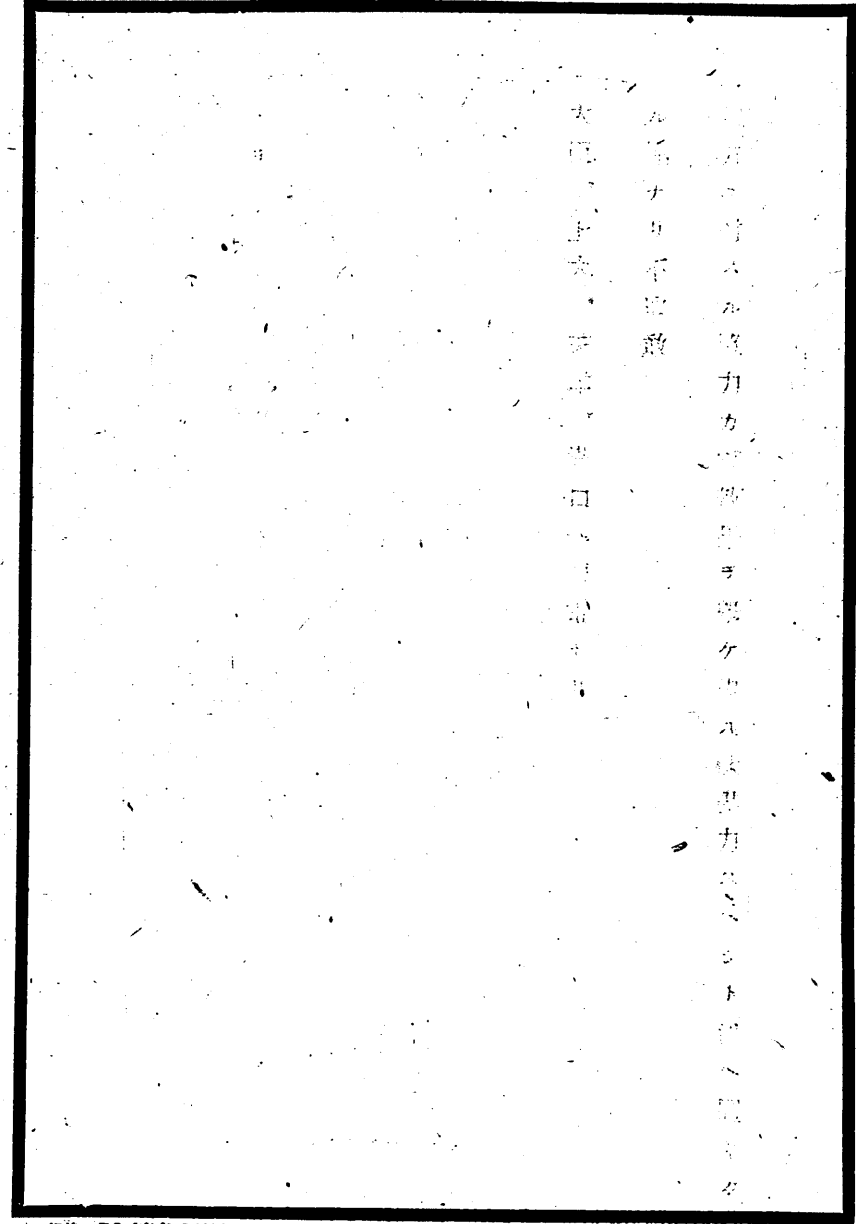
(日本標準規格B5)

0 42

電信寫

極秘

1254



規格-B5 (東京 3.195)

0 26

大東亞省

REEL No. A-1216

大臣  
次官

政務局  
第四課長  
第二課長

1254

(分類)

電 信 業	依り 依り 義知ノ 角 ナリナル 佛國ノ 在文	帝 國ノ 對 佛 印 方 針 ハ 往 來 第 四 シ 号 ニ	往 來 第 七 号 ニ 関 シ	電送第 786 號	主管 政務局長
				昭和十八年 一月 二日	主任 第一課長
外 務 省	依り 依り 義知ノ 角 ナリナル 佛國ノ 在文	帝 國ノ 對 佛 印 方 針 ハ 往 來 第 四 シ 号 ニ	往 來 第 七 号 ニ 関 シ	件名 佛國ノ對佛印方針ハ往來第四シ号ニ	發 大 臣
				録件名 第七符号扱	發 大 臣

電信課長  
發電係

昭和十八年一月二日 起草

半全五

押金 105

(日本標準規格 B5)

0 42

極  
秘

1254

電信寫

大東亞省

我方ニ對スル協力カ實效果ヲ學ケ得ル様盡カスヘントシテ通ヘ置キタ  
ル趣ナリ不取敢

大臣、上大、天津、漢口へ轉電セリ

規格—B5 (東東 3,195)

0 26

REEL No. A-1216



1254

電信案

南京へ轉電アリ

佛、伊ニ轉電アリ

右ノ趣旨ハ往中電第一二号ニ於テ採擇案ノ注ト

指道ヲ相成ヌ

去シテハ他例ヲ於テ先驅ケテ積極的

ニ佛例ニ工作セザル極高ニ當他例ヲ採

存ナルモ甚急

(日本標準規格 B5)

0 44

1254

電信案

外務省

租界内返還問題モ租界ノ國民政府ニ付集

認事問題等ヲ兼テ之ニ當然ニ重慶

例ト佛印トノ關係ヲ考慮スル必要アリ

方ニ於テハ之ヲ取扱ハ帳面ヲ期シワ、フル

ニ付貴方ニ於テモ右ノ旨ノ上ニ佛界ニ連

手南京佛界ニ對シテ他例ニ採擇ハ進テ

方ニ申出スルノ在リテ後ワテ守リセ

(日本標準規格 B5)

0 43

REEL No. A-1216

大臣 次官

1254

電送第 796 号  
15 日 15 分

主任 第一課長

昭和十八年 一月 十五日 起草

電信課長

發電係

全五 半二

5 03

陸海軍大臣 有了解

政務局 第二課長

第四課長

（パンテ種人）  
個々の陸軍  
多量

（分類）

電	依テ在佛重慶側代理大使ヲ退去セシムル結果佛印國境ニ於テ佛支
信	佛印ニ對スル帝國ノ方針ハ成ルヘク佛印ノ靜謐ヲ保持スルニ在リ
案	在佛大使發本大臣宛電報第七號ニ關シ
外	佛印ニ對スル帝國ノ方針ハ成ルヘク佛印ノ靜謐ヲ保持スルニ在リ
務	依テ在佛重慶側代理大使ヲ退去セシムル結果佛印國境ニ於テ佛支
省	佛印ニ對スル帝國ノ方針ハ成ルヘク佛印ノ靜謐ヲ保持スルニ在リ

（日本標準規格 B5）

1254

電送第 787 号  
15 日 15 分

主任 第一課長

昭和十八年 一月 十五日 起草

電信課長

發電係

全五 半二

5 03

陸海軍大臣 有了解

政務局 第二課長

第四課長

（パンテ種人）  
個々の陸軍  
多量

（分類）

電	本大臣後 独宛第四三号（總番号七八六）南 京ニ轉電
信	在佛大使發本大臣宛電報第七號ニ關シ
案	佛印ニ對スル帝國ノ方針ハ成ルヘク佛印ノ靜謐ヲ保持スルニ在リ
外	佛印ニ對スル帝國ノ方針ハ成ルヘク佛印ノ靜謐ヲ保持スルニ在リ
務	依テ在佛重慶側代理大使ヲ退去セシムル結果佛印國境ニ於テ佛支
省	佛印ニ對スル帝國ノ方針ハ成ルヘク佛印ノ靜謐ヲ保持スルニ在リ

（日本標準規格 B5）

REEL No. A-1216

ル充分ナル備ハアルモ我方トシテハ佛印ヲ能フ限り經濟的ニ利用  
 スル方針ニテ目下種々施策中ニモアリ差當リ成ルヘク佛印ノ靜謐  
 ヲ保持シ度キ意向ナリ依テ獨逸側ニ於テ異議ナキニ於テハ在佛大  
 使宛往電第 ~~ノ~~ 號括弧内ノ通り佛側ニ申入ルルコトト致度キニ  
 付了承アリ度キ旨申入レラレ結果當方及在佛大使ニ電報相成度  
 尙本件ノ如キ大東亞地域内ニ於ケル我方施策ニ影響スル問題ニツ  
 キ事前ニ我方ト協議スルコトナク獨側單獨ニ處理スルコトハ(獨

電 信 案

外 務 省

間ニ事ヲ構フルニ至ルカ如キハ當方ニ於テ好マサル所ナリ(以上  
 貴大使限リノ御含迄)冒頭來電ニ依レハ在佛支那大使館ハ取締嚴  
 重ニテ外部トノ交通・通信等遮斷セラレ居ルト同様ノ状態ニテ其  
 ノ存否ハ差シテ獨軍ノ安全ニ影響スルコトナク從テ獨側ニ於テ立  
 退キヲ特ニ急速ニ實現セシメサルヘカラサル理由ニ乏シキヤニ  
 察セラルル處貴大使ハ此ノ點ニ關シ獨側ノ意向ヲ訊シタル上「本  
 件ニ依リ重慶側カ如何ナル行動ニ出ツルトモ我方ニ於テ之ニ對ス

電 信 案

外 務 省

1254

1254

(分類)

電 信 案	二轉電	本大臣發獨宛第四二號(總番号 七七九六四)南京	電送第 715 & 717 號	主管 政務局長
			昭和十八年一月十五日	任 第一課長
外 務 省	第 二九 號	帝國/对佛印方針及在 佛重慶側外交機關 退去ニ関スル件	宛 在南京 重光大使	發 谷外務大臣
			記録件名	

(日本標準規格B5)

0 34

電信課長

發電係

昭和十八年一月十五日起草

5 046

電 信 案	南京へ轉電セリ	佛伊ニ轉電アリ度シ	方ノ注意ヲ喚起シ置カレ度シ	側ハ勿論善意ナルヘキモ一面白カラサルニ付前記申入ノ際適當先

(日本標準規格B5)

0 30

REEL No. A-1216

0026

アジア歴史資料センター

1254

(分類) 1000

電 信 案	一 三分大 便ニ対スル「ラハル」申出ヲ團員南京政府管轄	費 電 中 四 二 号 ニ 関 シ	独 逸 中 大 臣 宛 電 報 中 七 七 号 要 旨	電送第 1001 號	主管 政務局長
				昭和十八年一月二十日	主任 第十課長
外 務 省			在 南 京	件名 重光大使	發 谷大臣
				伯林來電中七七号	
				記録件名	發
				(館長等令報)	

昭和十八年一月二十日起草

津 C

(日本標準規格 B5) 0 36

1254

(分類) 150

電 信 案	本大臣宛独逸電報中四二号(總番号七九四及七九六)河内ニ轉電	電送第 2090 號	主管 政務局長		
		昭和十八年二月八日	主任 第一課長		
外 務 省		在河内	件名 重光大使	發 谷大臣	
			獨逸電報中四二号		轉電
				記録件名	發
				(館長等令報)	

昭和十八年二月八日起草

8-17

(日本標準規格 B5) 0 35

REEL No. A-1216

前付ハレタレモ、ニテ今ヤ國民政府ノ参戦ヲ見大々的ニ  
 世界ニ向ヒ宣傳ヲ行ヒ且独ニ対シテ種々申入ヲ爲シタ  
 ル直後恰モ佛國<sup>ニ就テハ</sup>重慶政府トノ關係維持ヲ希  
 望スルカ如キ申入ヲ行フハ大義名分ニ反スルニミテ大  
 東亞共栄國建設ニ対スル帝國政府ノ真意ニ大  
 ナル疑惑ヲ生セシムル虞アリ。

ニ即訓令ニ依ル本件申入ノ理由ハ佛印ノ靜謐保持

(日本標準規格B5)

電信案

外務省

2/4

ニ在リト思考セラハモ現在米極ハ支那ヲ基地トシ河  
 内爆撃ヲ行ヒ居リ若シ重慶側ニ能力有ラズ陸上  
 ヲリノ攻撃ヲ可能トシテノ常識的ニ見佛支間ノ政治的  
 關係ガ現状ニ何等影響ヲ與ヘ得ル<sup>御答スベシトカ</sup>ニ  
 思フ事本件申入ヲ爲シ恰モ帝國ガ佛印ノ治安維持  
 ニ孰々競々タルヤノ感ヲ與ヘ我方ノ政治力、軍事力、  
 鼎ノ輕重ヲ問ハルニ至ラズ

(日本標準規格B5)

電信案

外務省

4/4

1254

電 信 案

電 務 省

意ハ把握シ難キモ去來得ル限リ大東亞ニ於ケル權益ヲ

報<sup>甚</sup>キ<sup>下</sup>ルヲ以テ<sup>自</sup>見員申セ<sup>リ</sup>ル<sup>ト</sup>次<sup>ヲ</sup>ニ<sup>テ</sup>佛例<sup>ヲ</sup>真

國外交<sup>並</sup>ニ我國力ニ對スル信用ニモ<sup>影</sup>響<sup>ヲ</sup>與<sup>ス</sup>ル

要スルニ本<sup>自</sup>事<sup>ヲ</sup>態<sup>ハ</sup>些<sup>細</sup>カ<sup>モ</sup>其<sup>ノ</sup>影<sup>響</sup>甚<sup>キ</sup>ナ<sup>リ</sup>ト

レニ<sup>コ</sup>ト<sup>ヲ</sup>切<sup>テ</sup>望<sup>ム</sup>ス

地<sup>ノ</sup>分<sup>割</sup>情<sup>況</sup>ヲモ<sup>略</sup>念<sup>セ</sup>ル<sup>ト</sup>我<sup>方</sup>根<sup>本</sup>方<sup>針</sup>ヲ<sup>速</sup>ニ<sup>決</sup>セ<sup>ラ</sup>ル

旅<sup>軍</sup>ニ<sup>依</sup>ル<sup>佛</sup>本<sup>國</sup>ノ<sup>占</sup>領<sup>佛</sup>海<sup>軍</sup>ノ<sup>潰</sup>滅<sup>北</sup>阿<sup>佛</sup>植<sup>民</sup>

日本標準規格 B5 0 40

3/4

1254

電 信 案

電 務 省

三<sup>ノ</sup>尚<sup>中</sup>訓<sup>令</sup>ニ<sup>テ</sup>佛<sup>印</sup>ニ<sup>對</sup>スル<sup>帝</sup>國<sup>ノ</sup>方<sup>針</sup>ハ<sup>成</sup>ル<sup>ベ</sup>ク<sup>其</sup>ノ<sup>靜</sup>

謐<sup>ヲ</sup>保<sup>持</sup>スル<sup>ニ</sup>在<sup>リ</sup>ト<sup>ミ</sup>言<sup>ハ</sup>レ<sup>居</sup>ル<sup>ハ</sup>不<sup>見</sup>識<sup>ニ</sup>シ<sup>テ</sup>佛<sup>印</sup>

処<sup>理</sup>ニ<sup>因</sup>スル<sup>根</sup>本<sup>方</sup>針<sup>位</sup>ハ<sup>少</sup>ク<sup>皆</sup>此<sup>ノ</sup>際<sup>決</sup>定<sup>シ</sup>テ<sup>ラ</sup>ル<sup>ヲ</sup>要

ト<sup>ス</sup>認<sup>メ</sup>ラ<sup>ル</sup>蓋<sup>シ</sup>佛<sup>印</sup>ノ<sup>靜</sup>謐<sup>ヲ</sup>差<sup>當</sup>リ<sup>維</sup>持<sup>ス</sup>ル<sup>コ</sup>ト<sup>ニ</sup>

重<sup>要</sup>ト<sup>シ</sup>置<sup>カ</sup>ラ<sup>ル</sup>コ<sup>ト</sup>ハ<sup>得</sup>ズ<sup>ト</sup>ス<sup>ル</sup>モ<sup>一</sup>時<sup>的</sup>便<sup>宜</sup>ノ<sup>ミ</sup>ニ<sup>テ</sup>

引<sup>摺</sup>ラ<sup>ル</sup>コ<sup>ト</sup>ニ<sup>於</sup>テ<sup>ハ</sup>大<sup>東</sup>亞<sup>共</sup>同<sup>圓</sup>建<sup>設</sup>ノ<sup>理</sup>想<sup>ニ</sup>反<sup>ス</sup>

ル<sup>カ</sup>如<sup>キ</sup>事<sup>態</sup>誘<sup>發</sup>シ<sup>テ</sup>禍<sup>根</sup>ヲ<sup>今</sup>後<sup>ニ</sup>貽<sup>ス</sup>ル<sup>事</sup>甚<sup>キ</sup>ナ<sup>リ</sup>

日本標準規格 B5 0 39

REEL No. A-1216





1254

電
信
案
外
務
省
側へノ申入ノ結果ヲ俟タレ度シ
獨へ轉電アリ度シ
本電貴電第七號ト共ニ伊へ轉電アリ度シ
南京へ轉電セリ

(日本標準規格B5)

0 52

1254

電
信
案
外
務
省
ルコトト致度キ旨」申入レラレ度シ(申入ハ獨宛往電第四號獨
ニ付本件實行ノ時期ハ改メテ獨側又ハ帝國政府ヨリ貴方ニ申出ツ
存スル處本件ニ關シテハ目下日獨間ニ他ノ問題ト共ニ話合中ナル
ナリト思考シ佛國側ニ於テ獨側申出通り措置セラルルコト可然ト
對スル貴大使ノ應酬トシテハ「帝國政府トシテハ獨側申出ハ尤モ
獨大使宛電報第四號ノ通り獨側ニ申入ルルコトトセルカ佛側ニ
如キ措置ハ成ルヘク之ヲ避ケ度キ意向ナリ依テ不取敢本大臣發在
以上貴方限リノ場合迄

(日本標準規格B5)

0 51

REEL No. A-1216

秘

1254

昭和18 五〇五五二 暗 南京 一月十六日後發 本省 十六日夜着 政

谷外務大臣

重光大使

第三一號ノ一

重光大使「スターマー」大使トノ  
會議要領ニ關スル件

十六日午前「スターマー」大使離任挨拶ノ爲來訪シ一般情勢其ノ  
他各種問題ニ付意見交換ノ機會アリタルカ  
本使ヨリ今回ノ支那形勢問題ニ關聯スル帝國ノ政策並ニ日支ノ共  
同軍實及取極ニ關シ豫府ヨリ貴國政府ニ對シテ内密ニ聯絡説明  
シ居ル模様ニテ我對支政策ニ對シ獨逸政府ノ心カヲ御協力ヲ期  
待シ居ル模様ニテ悉ク支那ニ於ケル德國權益處理ノ問題モ含マ

0-58

外務省

(分類)

1254

電 信 案	暗 略	電送第 789 號	主管 政務局長
		昭和十八年一月十五日	主任 第一課長
外 務 省	第 二 八 號	宛 在南京 重光大使	發 谷 外務大臣
		件 帝國ノ對佛印方針及在佛 重慶側外交機南退去 ニ關スル件	發 谷 外務大臣
		記録件名	昭和十八年一月十五日起草

京ニ轉電

本大臣發佛宛第一六号(總番号七八八)南

日本標準規格B5

0 55

電信寫  
極秘

1254

昭和18 五〇五五二 暗 南京 一月十六日後發 政  
本省 十六日夜着

谷外務大臣

重光大使

第三一號ノ一

重光大使「スターマー」大使トノ  
會談要領ニ關スル件

十六日午前「スターマー」大使離任挨拶ノ爲來訪シ一般情勢其ノ  
他各種問題ニ付意見交換ノ機會アリタルカ  
本便ヨリ今回ノ支那參戰問題ニ關聯スル帝國ノ政策竝ニ日支ノ共  
同宣言及取極ニ關シ我政府ヨリ貴國政府ニ對シテ内密ニ聯絡説明  
シ居ル模様ニテ我對支政策ニ對シ獨逸政府ノ心カラノ御協力ヲ期  
待シ居ル模様ニテ恐ラク支那ニ於ケル佛國權益處理ノ問題モ含マ

0 58

外務省

(分類)

1254

電信案	電送第 789 號	主管 收務局長
	昭和十八年一月十五日	主任 第一部長
略	件名 帝國對佛印方針及在佛重慶側外交機關退去ニ關スル件	發 谷外務大臣
暗	第二八號	昭和三十八年一月十五日起草
本大臣發佛宛第一六号(總番号七八八)南		
京ニ轉電		

(日本標準規格B5)

0 55

REEL No. A-1216

極秘

電信寫

レ居レリト思考ス伊太利政府ニ於テモ充分ノ協力精神ヲ發揮シテ  
 日本ノ政策ニ倣ヒ居ルコトハ既ニ御承知ノ通ナリト述ヘタルニ對  
 シ「ス」ハ自分ニ接到シ居ル電報ニ依ルモ獨逸政府カ日本ノ政策  
 ニ充分協力スヘキハ明カニシテ此ノ點ニ付テハ御安心ヲ願度ク素  
 ヲリ佛國ニ對スル問題モ之ニ含マルル譯ナルカ自分ハ外相トノ關  
 係ハ勿論ノコト大本營ニ於ケル支人トノ關係モアリ大抵獨逸内部  
 ノ狀況ハ承知シ居リ又巴里ノ「アベツ」等ハ親シキ間柄ナレハ自  
 分モ聯絡ヲトル意濃ナリ(續ク)

外務省

極秘

電信寫

昭和18 五〇五二三 暗 南京 一月十六日後發 政  
 本省 十六日夜着  
 谷外務大臣 重光大使  
 第三一號ノ二  
 何レニスルモ東京ニ着任ノ上ハ獨逸ノ佛國ニ對スル根本方針ニ付  
 テ本國ニ問合せ積リナリト述ヘタリ  
 尙本使ヨリ支那カ參戰シタルコトハ軍事的ニハ大ナル意味ナキモ  
 政治的ニハ重大意味ヲ有スル譯ニテ今日ノ世界大戰ノ段階ニ於テ  
 樞軸側ニ於テモ極メテ簡單明瞭何人ニモ判リ易キ政策ヲ以テ突進  
 ム要アリ支那モ參戰シタル以上ハ總ニル戰團準備ヲ爲ササルヘカ  
 ラス外國權益ノ整理ハ無論ノコト敵側ノ策動及其ノ根據地トナル

外務省

極秘

電信寫

1254

昭和18 五〇五三五 暗 南京 一月十五日午後發  
本省 十六日午前着 改

谷外務大臣  
第三一號ノ三  
重光大使

要之、對支政策ハ戰爭遂行ノ爲簡單明瞭ニシテ且強力ナルモノナルコトヲ説明シタルニ對シ「ス」ハ大イニ共鳴シテ東京ニ於テハ充分ニ勵キ度シト述ヘタリ

尙「ス」大使ニ對シ東京當局ニ於テハ貴大使ノコトハ充分理解シ居ルニ付直ニ總領事ヲ話合ニ入ラレ然ルヘキ旨述ヘ置キタリ

大東亞大臣へ傳報アリタシ

北京、上海各大使館事務所長へ傳報セリ

0 62

外務省

極秘

電信寫

1254

ヘキモノハ絶對ニ許サルヘキニアラス自分ノ考ヘヲ以テスレハ佛ハ今日ニツノ椅子ニ腰掛ケルカ如キ態度ハ速ニ止メテ明瞭ナル態度ニ出テ少クトモ樞軸側ノ勢力範圍ニ於テハ樞軸側ノ政策ニ合流スルノ必要アリ「コスム」大使モ佛國トシテハ出來得ル限リ日本ノ政策ニ順應スル意思アルコトヲ傳言シ來タリ居ル様ノ次第ナリ

(續ク)

0 61

外務省

1254

極秘

電信寫

昭和18 五〇五三六 暗

南京 一月十六日午後  
本省 十六日夜着

谷外務大臣

重光大使

第三二號ノ一

(伊及佛ノ治外法權撤廢問題ニ關スル件)

十六日諸外交部長來訪シ伊太利ノ租界還付及治外法權撤廢ニ付テハ其ノ後伊太利大使誦ヨリ簡單ナル本國政府ノ來電寫ヲ送付遞シタルニ止マリ協定ノ締結成ニ之カ實行ハ今後ノ交渉ニ俟タサルヘカフサル次第ナルカ近ク赴還ノ機會ニ「タリアニ」大使ニ面會之カ促進方打合スコトト致度シ尙去ル九日當地佛國領事外交部派官ヲ來訪シ國民政府ニ於テハ二月十五日自外國租界ヲ回收ストノ條

0 63

外務省

1254

電信寫

2

アルカ如何ト訊不來タリ斯ルコトナキ旨答ヘ置キタルカ其ノ後自分ヲ訪不來タレルニ付日本側ハ既ニ租界還付治外法權撤廢ヲ提示シ伊國モ之ニ合流シ佛國モ何等カノ措置ニ出テサレハ取り殘サルルコトトナルハ佛國トシテ大損失ナルヘシト突ツテ置キタル處同領事ハ右ノ次第ハ在北京ノ大使ニ電報スヘシト答ヘタリト述ヘタリ本使ハ伊太利カ速早ク態度ヲ表明セルハ其ノ裏面ニ日本側ノ苦心ノアルコト御推察ノ通りニシテ強硬調ハ感テ連齋シテ一致ノ政策ニ出テ居ル次第ナリ(續ク)

0 64

外務省

極秘

電信寫

1254

昭和18 五〇五三七 暗

南京 一月十六日後發  
本省 十六日夜着

政

外務省

谷外務大臣

重光大使

第三二號ノ二

又佛國ニ對シテハ既ニ日本側ニ於テモ種々研究ノ上折衝シツツアリ現ニ「コスム」大使モ日本ノ態度ハ良ク諒解シ居レリ唯同國內情ヨリ本國ト出先トノ關係ハ複雑ニシテ之ニ對スル交渉ハ充分注意シテ行ハサレハ却テ事態ヲ紛糾セシムル惧アリ外國トノ交渉ハ一切前以テ我方ト緊密ナル聯絡ノ上ニテ行フコトニ此ノ上共特ニ留意セラレタシト告ケ置キタリ  
上海、北京へ轉電セリ

0 65

外務省

手回

極秘

電信寫

1254

昭和18 八八五 (暗)

伯林 一月十六日後發  
本省 十八日後着

大島大使

第七七號 (昭長符號政)

帝國ノ對佛印方針及在佛重慶國外交機關退去ニ關スル件

賈電第四二號ニ關シ

「ラバル」ノ三谷大使ニ對スル申出カ南京政府ノ參戰前ニ行ハレタルモノナルコトハ御承知ノ通りナル處先般南京政府ノ參戰ヲ見世界ニ對シ大々的ニ宣傳ヲ行ヒ又獨ニ對シテ種々ノ申入ヲ行ヒタル直後恰モ佛ニ對シテハ重慶政府トノ關係ヲ維持セシムルコトヲ希望スルカ如キ申入ヲ爲スハ唯ニ大義名分ニ反スルニ

0 66

極秘

電信寫

止マラス帝國政府ノ大東亞共榮圈建設ニ關スル真意ニ大ナル疑  
 惑ヲ生セシムル惧アリ

三 貴電ニ依レハ本件申入ヲ爲ス理由ハ佛印ノ靜謐ヲ保ツニ在リト  
 認メラルル處境ニ支那ヲ基地トスル米機ノ河内爆撃行ハレ居リ  
 若シ重慶地ニ能力有リトセハ陸上ヨリノ攻撃ヲモ行ハレ得ハク  
 佛支間ノ政治關係カ現狀ニ何等影響ヲ及ボシ得ルモノトハ常識  
 的ニ考ヘ得サルコトニシテ貴電ノ如キ申入ヲ爲スハ恰モ帝國カ  
 佛印ノ治安維持ニ戰々兢兢タルモノアリヤノ印象ヲ與ヘ帝國ノ  
 軍事力、政治力ハ鼎ノ輕重ヲ問ハルルニ至ラン

三 今尙「佛印ニ對スル帝國ノ方針ハ成ルハク佛印ノ靜謐ヲ保持ス  
 ルニアリ」トノ公議ハレ居ルハ率直ニ申上クレハ甚タ不見識ナ

外務省

極秘

電信寫

ル話ニテ少ク共佛印處理ニ關スル將來ノ根本方針位ハ此ノ際決  
 定セラレアルヲ安スルモノト思考ス蓋シ差當リ佛印ノ靜謐ヲ保  
 ツコトニ重點ヲ置カルルハ止ムヲ得ストスルモ唯時ノ便宜ノミ  
 ニ引摺ラルルニ於テハ思ハス大東亞共榮圈建設ノ理想ニ背馳ス  
 ルカ如キ事態ヲ生シ將來ニ禍根ヲ貽スコトトナルヘキ惧アリ佛  
 本國自體ハ既ニ獨軍ノ占領スル所トナリ佛海軍モ全ク潰滅シ北  
 阿ノ植民地亦四分五裂セラレタル現狀ヲモ睨合セ速ニ我根本方  
 針ノ決定セラレシコトヲ切望ス

四 之ヲ要スルニ本件ハ事些細ナリト雖モ其ノ及ボス影響ハ極メテ  
 重大ニシテ帝國外交竝ニ我國力ニ對スル信用ニモ關スルモノア  
 ルヲ以テ敢テ早見ヲ申進セル次第ニシテ佛カ右申入ヲ爲セル真

外務省



大 官 1254

政務局 第二課長 第四課長

(分類)

電 信 案	充分考慮ヲ加ヘタルキ差當リ帝國トシテハ諸般ノ事情ヨリ佛印市	御來示ノ次第ハ十應尤キキヤオ當方ニ於テモ豫メ此等ノ諸點キ付	貴電第七七號ニ關シ	電送第 1276 號	主管 政務局長
				昭和十八年一月十九日 午後五時 60分發	主任 第一課長
外 務 省	が諸般ノ事情ヨリ佛印市	在佛重慶側外交機關退去ニ	關スル件	宛 在 大 獨 大 島 大 使	昭和十八年一月十九日起草
				發 谷 外務大臣	
				第 六 〇 號	館長符號

電信課長 寫 發電係

20039

(日本標準規格 B5)

0 70

1254

極 秘

電信寫

佛、伊へ轉電セリ

南京へ轉電アリタシ

ヲ請フ

ルニアルヤニモ考へフル就テハ至急御再考ノ上何分ノ儀御同電

獨ノ壓力ヲ支ヘンカ爲東亞ノ事態ニ引掛ケ帝國ヲ利用セントス

意ハ遽ニ判断シ難キモ豫メ爲シ得ル限り大東亞權益ヲ擁護シ又

0 69

外務省

REEL No. A-1216

寫七部  
政

政務局  
第二課長  
第四課長

大 次  
1254  
官

(分類)

電 信 案	充分考慮ヲ加ヘタルニテモ豫メ此等ノ諸點ヲ付 御來示ノ次第ハ十應尤キニシテ當方ニ於テモ豫メ此等ノ諸點ヲ付 貴電第七七號ニ關シ	電送第 1276 號	主管 政務局長
		件名 在佛重慶側外交機關退去ニ 關スル件	主任 第一課長
外 務 省	館長符號	發 谷 外務大臣	昭和十八年一月十九日起草

(日本標準規格 B5)

0 70

極  
秘  
電信寫

1254

意ハ遽ニ判断シ難キモ豫メ爲シ得ル限り大東亞權益ヲ擁護シ又  
獨ノ壓力ヲ支ヘンカ爲東亞ノ事態ニ引掛ケ帝國ヲ利用セントス  
ルニアルヤニモ考ヘラル就テハ至急御再考ノ上何分ノ儀御回電  
ヲ請フ

佛、伊へ轉電セリ

南京へ轉電アリタシ

0 69

外務省

破二村在路舎香後ニ附後ノ上  
 面ニ多數ノ兵力ヲ吸收セラルルコトハ好マサル所ニシテ一勿論統  
 帥部トシテハ北部佛印及廣州灣方面ニ對スル重慶側ノ侵攻アル場  
 合ヲ考慮シ之カ對策ヲ促進シツツアルモノ爲ニ成ルヘク佛印ノ靜  
 謐ヲ保持セントスル餉定方針ニ則シ今次ノ措置ニ出ツルコトニ決  
 定セル次第ナリ一其本管政府連絡會議決定ト  
 就テ右御舎ノ上申然御措置相成度  
 佛印往來ノ事ニ五ノ子ヲ多照シセラレ  
 勿論當方ニ於テハ本件及佛租界返還問題ヲ何時迄モ未解決ノ儘ト

電信案

外務省

(日本標準規格B5)

0 71

スル意向ナリ諸般ノ情勢トニラミ合セ成ルヘク速カナル機會ニ之  
 ヲ解決シ度キ意向ニ付其際ハ改メテ申進スヘシ  
 以上嚴キ貴木使限リノ御舎達  
 佛、伊ニ轉電アリ度シ  
 北京、上海  
 南京ニ轉電セリ  
 (二月八日在河内雲山事務總長へ轉電セリ)

電信案

外務省

(日本標準規格B5)

0 72

1254

(分類)

電 信 案	河内ニ轉電	本大臣發宛電報第六〇号(總番号一七六号)	電送第 2693 號	主管 電信課長
			昭和十八年二月八日 午後六時三十分發	主任 第一課長
外 務 省	河内ニ轉電	獨宛電報第六〇号	件名 宛	在河内
			件名 宛	栗山事務總長
			記録件名	發 谷大臣
			第三五號	(銀長等)

昭和十八年二月八日起草

0 74

(日本標準規格B5)

1254

(分類)

電 信 案	南京、北京、上海ニ轉電	本大臣發宛電報第六〇号(總番号一七六号)	電送第 1279 號	主管 政務局長
			昭和十八年一月二十日 午後六時二分發	主任 第一課長 代
外 務 省	南京、北京、上海ニ轉電	在佛重慶側外交機關	件名 宛	在南京 重光大使
			件名 宛	在北京 田嶋公使
			記録件名	發 谷外務大臣
			第五五號	(發長等)

昭和十八年一月廿二日起草

0 73

(日本標準規格B5)

REEL No. A-1216

他秘

1254

昭和18 九六二 (暗) 一月十八日後發  
 谷外務大臣 三谷大使  
 第二八號 (大至急、館長符號扱)  
 (租界問題、茲ニ在佛重慶代表引揚方ノ件)  
 十八日午後「ラバル」ノ来ニ依リ往訪シタル處支那問題ニ關シ  
 一、今般貴國ニ於テ支那ノ租界治外法權ヲ汪政權ニ返還セラレ伊太  
 利亦之ニ倣ヒ佛國ノミ依然之等ノ特權ヲ維持スル形トナリ甚タ  
 時勢ニ副ハサルモノアリ自分トシテハ決シテ之等特權ヲ惜ムモ  
 ノニアラサルヲ以テ拋棄ノ宣言ヲ致度キモ右特權ハ總テ日本ノ  
 勢力範圍即チ汪政權下ニアリ從テ右宣言ハ汪政權ニ對シナスニ

0 75

外務省

五月十八日

1518

1254

(分類)

電 信 案	河内ニ轉電	本大臣宛佛宛電報(一六号)(總番号亦七八八号)	電送第 (2691) 號	主管 政務局長
			18. 2. 8 午後6時30分	主任 第一課長
外 務 省	河内ニ轉電	本大臣宛佛宛電報(一六号)(總番号亦七八八号)	件名 宛	在河内 栗山軍務總長
			件名 宛	佛宛電報(一六号)
			第 三四 號	發 谷 大臣
			(館長符號扱)	昭和一八年二月八日起草

(日本標準規格B5)

0 56

1254

極秘

電信寫

昭和18 九六二 (暗)

ワイシー 一月十八日後發

本省 二十日後着

谷外務大臣 三谷大使

第二八號 (大至急、館長符號扱)

(租界問題、竝ニ在佛重慶代表引揚方ノ件)

十八日午後「ラバル」ノ來メニ依リ往訪シタル處支那問題ニ關シ  
 今般貴國ニ於テ支那ノ租界治外法權ヲ汪政權ニ返還セラレ伊太  
 利亦之ニ倣ヒ佛國ノミ依然之等ノ特權ヲ維持スル形トナリ甚タ  
 時勢ニ副ハサルモノアリ自分トシテハ決シテ之等特權ヲ惜ムモ  
 ノニアラサルヲ以テ拋棄ノ宣言ヲ致度キモ右特權ハ總テ日本ノ  
 勢力範圍即チ汪政權下ニアリ從テ右宣言ハ汪政權ニ對シナスニ

0 75

1254

(分類)

電 信 案	河内ニ轉電	電送第 (269) 號	主管 政務局長
		昭和18年2月8日午後6時30分發	主任 第一部長
	件名	宛	發
	河内ニ轉電	在河内 栗山軍勢總長	谷大臣
	本大臣發佛宛電報亦一六号(總番号亦七八八号)	記録件名	
	三四 號		

昭和一八年二月八日起草

8-18

0 56

(日本標準規格B5)

REEL No. A-1216

電信寫  
極秘

1254

御配慮ヲ請ヒタシ  
ニ往電第七號ノ件ニ關シ更ニ獨側ヨリ書面ヲ以テ重慶代表ヲ他ノ  
獨ノ敵國代表者ト同様一定場所ニ強制居住ノ措置ヲ執ル様要求  
シ來レリト語レリ右ニ對シ本使ハ當地重慶代表ノ處置ニ付テモ  
未タ訓令ニ接セサル處今日御申出ノ件早速電報ノ上訓令ヲ請フ  
ヘキ旨約シ置ケリ就テハ何分ノ儀至急御回電ヲ請フ  
獨へ轉電セリ

0 77

外務省

電信寫  
極秘

1254

アラサレハ無意味ナル處佛カ未タ同政權ヲ承認セス重慶政府ト  
國交ヲ保持シ居ル所以ノモノハ先日モ申上ケタル通り佛印ノ關  
係上重慶ヲ挑發スルコトヲ恐ルルカ故ナリ而シテ前記宣言ヲナ  
サントスルニ當リテハ重慶トノ國交斷絶ヲ豫期セサルヘカサ  
ルヲ以テ先日申上ケタル獨逸ノ要求ニ對スル日本ノ御回答如何  
ニ依リ本件ノ決定ヲモ致度シ要スルニ係<sup>自分</sup>ハ日本ノ御意嚮通り  
ニナスヘク日本トノ了解ノ上ナラテハ何等ノ措置ヲ執ラサルヘ  
シ日本カ前記宣言ヲ希望セラルレハ直ニ之ヲナスヘク又對重慶  
關係上暫ク待テト言ハルレハ待ツヘシ唯日本カ右宣言ヲ猶豫ス  
ルコトヲ希望セラルル場合ニハ南京政府ニモ其ノ旨ヲ含メテ佛  
利權殊ニ上海ノ佛租界ニ對シ一方的ニ手荒キ措置ヲ執ラサル様

0 76

外務省





電 信 案

電 務 省

望カハルニテ強ク人待フベク直クニ前記宣言ヲ爲スヲ希望ス

措置ニ出テザルベシ 日本ガ対重慶關係上暫ク待ツヲ希

意嚮ニ通りニ致スベク貴國トノ了解ノ上ナラデハ何等ノ

懸ラ決定シタキ所存ナリ、要スルニ自分トシテハ貴方仰

タル如クノ要求ニ対スル貴方ノ仰回答<sup>ヲ待ケル</sup>ハ如何ナリ本國

慶トノ國交断絶ヲ豫期セザルベカラザルニ付<sup>ハ</sup>及田仰話シ

登スルヲ恐ルルカ爲ニシテ前記宣言ヲ爲ス場合ニハ重

(日本標準規格B5)

電 信 案

電 務 省

伊國モ亦同様ノ措置ニ出テタルヲ佛國ノミ是等特權ヲ依

然保持スル攻取トナリ甚ダ時勢ニ副ハズ自分トシテハ是等

特權ヲ濫ムモノニアラザルヲ以テ抛棄ノ宣言ヲ行ヒ度

キモ右特權ハ全部汪政權下ニ在リ仍舊汪政權ニ對シ

宣言ヲ爲スニ非ザレバ無意味ナル也我方ハ未ダ同政

權ヲ承認シ居ラズ佛國ガ重慶政府ト國交ヲ保持シ居

ルハ及般モ申述ベタル如ク佛印小國等ニテ重慶ヲ挑

(日本標準規格B5)



大臣 決 控

1254

政務局 第二課長 第四課長

陸海軍 外務省 第七部 (分類)

電送第 1281 號	主管 政務局長
昭和十八年一月二十日 午後五時 五分	主任 第一課長
宛 在 三 谷 大 使	發 谷 外務大臣
件 22名在支佛租界返還及在佛重慶側代表引揚ノ件	記録件名
第 二 五 號	(部長符号) 係
貴電第二八號ニ關シ	諸般ノ事情ヨリ暫ク關佛印ノ靜謐ヲ保持セントスル帝國ノ方針
(大本營政府連絡會議決定)ハ今暫ク之ヲ維持スルヲ要アル實狀	外務省

電信課長

發電係

昭和十八年一月二十日 起草

220037

總務課 海參崴 駐在 書記

1254

新奉

ニシテ重慶側外交機關ノ處理及在支佛租界返還等宣言ハ當方事情  
 本令暫ク  
 一諾不違之ヲ延期セシメ度キ意向ナリ就テハ往電第一六號貴大使  
 ノ「ラバル」ニ對スル應酬ヲ左ノ通り改メ佛側ニ申入レラレ度シ  
 「帝國政府」ニ對シテハ重慶側代理大使ノ處理ニ關スル獨側申出  
 尤モナリト思考シ居リ佛國側ニテ獨側申出通リ措置セラレルコト  
 可然ト存ス又佛國政府ニ對シテ東亞ノ事態ヲ認識シ帝國政府ノ對支  
 措置ニ同調シテ在支佛租界ノ返還及治外法權撤廢ヲ實行セラレン

外務省

(日本標準規格B5)

0 88

(日本標準規格B5)

0 87

REEL No. A-1216



1254

(分類)

電 信 案	外 務 省	轉電 (西貢、越報、度)	本大臣發佛宛電報第25号(總番号一三八)	暗	電送第	1356 號	主管 政務局長 主任 昭和三十八年一月二十三日起草
				平路	昭和十八年一月二十三日發	2時30分發	
				件名宛	在河内 在越南 在支佛租界區區及在佛	在河内 牙快大使 内山公使	
				重慶側代表引揚件	谷 外務大臣		
			第 三 號	配錄件名			

電信課長 發電係  
30016

0 92

1254

(分類)

寫字部

電 信 案	外 務 省	南京、北京、上海、轉電	本大臣發佛宛電報第25号(總番号一三八)	暗	電送第	128 號	主管 政務局長 主任 昭和三十八年一月廿二日起草
				平路	昭和十八年一月二十三日發	4時40分發	
				件名宛	在河内 在越南 在支佛租界區區及在佛	在河内 牙快大使 内山公使	
				重慶側代表引揚件	谷 外務大臣		
			合 第 五 四 號	配錄件名			

電信課長 發電係  
昭和三十八年一月廿二日起草  
22-38

0 91

REEL No. A-1216

1254

佛名トシテハ何時ニテモ其在支租界及治外特  
 權等ノ特權放棄ノ宣言ヲ若ク用意スル旨  
 (在佛方使事第百廿二八号ノ答返) 言明シ  
 若ク此以上當地又ハ此等ニ於テ佛例ヲ視  
 得ル必要モナク却テ冒頭我方方針  
 (以上)  
 建策ヲ核得ル必要ト存留スルニ付右  
 海峽ノ上北東部ヲ南東部迄措置相成

(日本標準規格 B5)

0 94

電信案

外務省

REEL No. A-1216

大臣 1254

(分類)

電 信 案	外 務 省	電送第 1254 號 昭和十八年一月二十一日 午後七時五分發	主管 政務局長 主任 第一課長	電信課長 發電係	昭和十八年一月二十一日 起草
往電第 一六 号ニ付 本大臣ヲ独出紀往電七才四二号及佛出紀 佛印ニ對シテ佛方方針ハ一體放棄ノ 旨ヲナル一方「ラハル」既ニ三才ハ佛ニ對シ		件名 在支佛租界ノ返還事 件ニ關スル件	宛 在支佛租界 重光大使	發 出 大 五	21 C41
第三六六 號 第七符号扱 堅上		記録件名			

(日本標準規格 B5)

0 93

1254

(分類)

1253

電 信 案	北京及上海=轉電	本大臣發南京宛第三六号(総番号一二五二)	暗	電送第	1254 號	主管	政務局長
			略	昭和十八年二月二十日	時	30分發	主任
外 務 省	北京及上海=轉電	本大臣發南京宛第三六号(総番号一二五二)	合	第	五	三	號
					在支佛租界、返還等	在上海	田尻公使
					在北京	塩澤公使	谷外務大臣
					配録件名		

電信課長



發電係

全= 半=

昭和十八年一月二十日起草

21 042

(日本標準規格B5)

0 96

1254

✓

電 信 案	海内、西貢へ轉電あり	北京、上海=轉電あり	大正中盤者ト打多後	3ルニトカ然リ存ス	貴方ニ於テモ為方アリト在路ヲ俟テニ作セ	予ノ未カ事ヲ政務省河等申大レ存ラザルニ付	及西班牙等ノ他ノ事ニ對シテモ我方
-------------	------------	------------	-----------	-----------	---------------------	----------------------	------------------

外務省

(日本標準規格B5)

0 95

REEL No. A-1216

電信寫

昭和18 五〇七八六 暗 上海 一月二十三日後發 政  
本省 二十三日後着

谷外務大臣 田尻公使

第一號ノ一(緊急)

(對支問題ニ關スル佛大使トノ會談ニ關スル件)

重光大使ヨリ

二十三日午前「コスム」佛大使來訪

「先ツ佛大使ヨリ左ノ通り述フ

(一)支那ニ於ケル今日ノ事態ニ鑑ミ自分ハ佛國トシテハ完全ニ日本ト協調スヘキモノト思考シ租界及治外法權ノ問題ニ付テモ日本ノ措置ニ做フヘキヲ進言シ本國政府ノ承認ヲ得タリ

外務省

電信寫

(一)唯困難ナルハ重慶トノ關係ナリ政治的ニ考フレハ何レ重慶ト斷絶スルヲ可ト信スルモ若シ佛印ニ於ケル軍事ノ必要上佛政府ニ於テ重慶ト斷交スルヲ不可トスレハ南京ニ對シテハ事實上ノ關係ニ入りテ事態ヲ處理スルノ要アリ

重慶ト斷交シテ現状ヲ解決スルヤ又ハ斷交セスシテ南京「ヂ」フアクト」政府ト認メテ問題ヲ解決スルヤハ東京「ヴィン」間ノ交渉ノ結果ヲ待ツノ外無シ

(二)若シ斷交ヲ欲セストナフハ自分ノ考ヘハ租界及治外法權問題ニ付テ先ツ支那國民一般ニ宛テタル宣言ノ形ヲ以テ意思表示ヲナシ然ル上ニテ南京側トノ間ニ取極ヲナシ南京ヲ事實上承認シテ結束ヲ附ケ而シテ南京ニハ領事館ヲ置キ自分モ時々行

外務省



電信寫

1254

電信寫

1254

キテ南京政府ト接觸ヲ採ルコトト致スヘシ何レニシテモ貴大  
使ノ指示ニ依ルコトトスヘシ(續ク)

外務省

0 100

昭和18 五〇七八五 暗

上海 一月二十三日後發  
本省 二十三日後着 政

谷外務大臣

田尻公使

第一號ノ二(緊急)

三本使ヨリ以上先方ノ表明セル内容ヲ更ニ確メタル上質問シタル  
ニ對シテ「コスム」ハ更ニ左ノ通り答ヘタリ

(一) 斷交シタリトテ自分ハ重慶カ宣傳スルカ如ク軍隊ヲ以テ押出  
スカ如キコトヲ信セス唯小規模ノ宣傳的進出又ハ内部擾亂策  
ニ手ヲ着クルコトハアリ得ヘシ但シ此ノ點ハ軍事上ノ判斷ニ  
俟タサルヘカラス

(二) 南京ヲ事實上ノ政府トシテ承認セル際重慶ハ進ンテ斷

外務

0 101

電信寫

1254

南大、北大へ轉電セリ  
佛へ轉電アリ度シ

(轉電濟 電信課)

外務省

0 103

電信寫

1254

ト思フヤトノ質問ニ對シ(重慶ハ斷交セサルヘク此ノ點ハ自  
分ノ確信スル所ナリ從來佛印ノ協同作戰取極ノ際モ經濟協定  
ノ際モ亦租界法院問題ヲ南京政府ト取極メタル際モ何等其ノ  
氣配無カリキ租界法權問題ノ處理ハ寧ロ支那一般ノ喜フヘキ  
所ニシテ之カ爲ニ斷交ヲ決スルカ如キコト斷シテ無シ  
③北京公使館區域等ノ處分ニ付テハ素ヨリ何等ノ異存無キニ付  
御決定ノ上ハ成ル可ク速ニ御知ラセテ受ケタク自分ニ於テハ  
日本側ノ希望セラルルカ如ク善處スヘシ(「コスム」大使ハ  
公使館區域ニ付テハ尙專任大使ノ資格ニ於テ處理シ居レリ)  
尙上海租界等ノ處置ニ付テモ一ニ貴大使トノ聯絡ニ依ツテ日  
本側ト同一ノ態度ヲ以テ善處スヘシ

外務省

0 102

1254

極秘

電信寫

陸海軍  
東  
スレ

昭和18

一月二十九

(贈)

伯林

一月二十三

日

後發

本省

二十五日

發着

外務省

谷外務大臣

第一〇〇號 館長符號扱

(在佛重慶測外交機關ノ退去ニ關スル件)

佛發賣大臣宛第七號及貴電第四二號ニ關シ

在「ヴィンシー」獨發關員「ライヘ」目下在伯中ナルカ二十二日館

員ニ語ル處左ノ通り

一、舊非占領地域ニ於テハ行政權ノ大部ハ依然トシテ拂則ニアルヲ

以テ同地域ニアル獨軍ノ地位ハ純然タル占領軍トハ稍異ナルモ

米測ニ於テ北阿上陸ノ際獨領事館員及休戰委員等ヲ監禁セルヲ

0 104

1254

極秘

電信寫

以テ右ニ對應シ在「ヴィンシー」米大使館員ヲ監禁シ目下「バー  
デンバーデン」ニ在リ從テ「ヴィンシー」ニ殘存スル唯一ノ敵國  
外交官ハ支那大使館員ナリ

二、獨軍進駐前米カ「ヴィンシー」ニ於テノサバリ居リタル當時米側

ト最モ接近シ居リタルハ支那ニシテ而モ米側ヨリ資金ヲ受ケ全

ク其ノ手先トシテ諜報勤務ニ從事シアリタルコトニ付テハ獨側

ニ於テ確タル證據ヲ握リ居レリ素ヨリ獨軍進駐後ハ嚴重ニ監視

シ居ルモ何分目下ノ節ノ如ク其ノ行政權ニ充分ノ信頼ヲ置ク能ハ

ハサル狀況ニ於テ支那大使館員カ從來ノ因縁ヲ辿リ何時活動ヲ

始ムルヤモ計ラレサルヲ以テ獨トシテハ之カ存在スルハ不快ト

スル處ナリ云々

0 105

外務省

陸海軍  
原案

極秘

電信寫

1254

昭和18

一一一五四

(暗)

伯林

一月二十三日

午後發

十五日前着

本省

谷外務大臣

大島大使

第一〇九號 館長符號

貴電第六〇號ニ關シ

正式ニ獨側意嚮ヲ質シタル諺ニハアラサルモ在電第一〇〇號ニ依  
リ獨側ノ主張ハ明瞭ニシテ而モ右ハ法律的ニモ實質的ニモ充分ノ  
根據アルモノト認メラル素ヨリ目下ノ日獨關係ニ於テ日本側ヨリ  
特ニ希望スルニ於テハ理由ノ如何ヲ問ハス獨側ニ於テ我カ要望ヲ  
容ルヘントハ存スルモ何分ニモ日本側ヨリ「ヴィンシー」ノ重慶機  
關存置ヲ希望スルコトカ如何ニモ奇妙ナル丈ケ或ル程度ハ其ノ説

0 106

外務省

極秘

電信寫

1254

明日必要ナル結果ニ往電第七七號ノ如中誤解ヲ生スル虞アル  
ヲ憂フルモノナル處貴電第四二號ニモ先ヅ「獨側ノ意嚮ヲ質シタ  
ル上」ト謳ハシ居ルヲ以テ爲念更ニ御伺タル次第ナリ折返シ御同  
電ヲ請フ  
佛ニ轉電セリ

0 107

外務省

REEL No. A-1216

アジア歴史資料センター



1254

電信案

予算の多寡を定むるに必要ありや否や

此上ハハ前記我手書等ヲモ排除シテ事件

ナリ。特手書第四号ニ「特別」素向ヲ算入

トスルモ前記我手書ヨリ已ヲ得サル如ク

別スルエトトシタリ。在ハ理由多クノ無難アリ

御印ノ静謐ヲ保シテ之ヲ希望スル方ヲ以テ志

我ヲ折此方使ト御印結着るニ社令中ニモナリ

(日本標準規格 B5)

0 110

1254

電信案

此ノ理由トシテハ現ニ御印ノ対日協力強化ニ関シ

キユトニアラス。延期セシメントスルニ過ギズ。而シテ

キ折孫ノみ折戻アルヲ以テ是ニ答ハレ一時(之レモ長

慶(例トシテ)構フルニ至ルエトハ今暫ク之ヲ辭シケタ

唯之カ多敷ナル等ハ依リ御印國境ニ於テ重

ラカルエトハ厚信ノ住書ニ依リ慎重知ノ用ヲナリ

ノ如ク「重慶機」関存置ヲ希望スルモノニア

(日本標準規格 B5)

0 109

REEL No. A-1216

1254

電 信 案

外 務 省

取手ハ右ノ事情以島ト内務公衆ノ上至多ハ独創  
 一持衝セヨシ在佛大使ヲ送ニ「ラバル」ニ回信  
 ン得ル極取手ヲハレカシ  
 佛ハ拙電アリカシ

(日本標準規格B5) 0 111

昭和18 五〇九二七 暗

青木大東亞大臣

K第八號 (至急)

(重慶側ノ廣州灣武力回收説情報)  
 當地海軍經由在廣州灣戶根木副領事ヨリ左ノ通  
 最近重慶側ノ廣州灣武力回收傳ヘラレ居ル處之ニ備スルP.A.重慶特  
 報左ノ如シ  
 英美側ヨリ將ニ對シ「トゴール」一機ヲシテ在支佛國特種機體發言方  
 提議セルニ對シ麻ハ合致英米人ノ不平等條約廢棄ハ左シテ重益ヲ傳ヘカ

支總(總領)  
 大東亞省  
 大岡總領事代理

仙光三八号ニテ政回リ電也

昭和18 一月二十七日後發  
 本館 二十七日夜着

292  
 2

REEL No. A-1216